

集会に寄せられたメッセージ



～～脱原発運動の大きな一歩～～

玄海原発プルサーマル裁判の会 小林栄子

プルサーマル裁判提訴後、私たちは必死に走り続けました。そして絶望感と挫折の日々の連続でした。そんな矢先の福島の大惨事。偶然にも第2回口頭弁論の当日でした。信じられないほどの恐ろしい津波の映像を大画面で観ながら、「明日から人生が変わる！」とひとりで呟いていました。

今、福島の教訓から善良な市民がようやく気づき始め、勇気ある声を挙げています。一方で被災地の収束も原因の検証も出来ない今日、躍起になって再稼動しようとしている玄海原発。これは正気の沙汰ではありません。

さまざまな抗議行動の末、無期限のハンガーストライキに入った仲間、佐賀県主催の説明会に対抗して同日同時刻の私たちの住民説明会、菊地洋一さんが玄海町で大学学習会など、抗議行動はまだまだ続きます。本当にあと一歩です。

そこへ愕然とする新事実、玄海原発再稼動を求める投稿を関連会社に依頼するなど九電の姑息な姿勢が内部告発によって発覚。国会でも取り上げられました。そして…岸本玄海町町長の脱税疑惑！あと一歩です！

そして本日7月7日私たちはついにやりました！美浜の会小山さん、冠木弁護士のご支援で祈願の玄海2号機3号機再稼動差止仮処分申し立てをしました。だから…だからあと一歩なんです。そして神の手は私たちに味方してくれます。私達の願いが花開く時まで、いいえ、原発の息の根を止め、54基が廃炉を迎えると言う確固たる実を結ぶその時まで、関西の皆様、連帯して共に頑張り貫きましょう！

「原発さよなら関西集会」にお集まりの皆さま

原発さよなら四国ネットワーク

大野恭子

いつも皆さまの活動に励まされています。ありがとうございます。

私達の思いは今、大きなうねりとなり社会を動かし変えていこうとしています。

愛媛県の、ある民放テレビで、7月4日、愛媛県民の原発に対するアンケート調査が発表されました。

結果は、愛媛県民の6割の人が、廃炉を望んでいるということでした。また、若いお母さんたちが、「子どもたちの未来を放射能から守る会」を立ち上げ、県議会に3件の請願を提出しています。

何の根拠もない国の「原発安全宣言」を信じることはできません。電力会社に私たちの命を支配されたくありません。

伊方原発3号炉のプルサーマルを止め、全ての原発を廃炉にする時です。

福島で被災されたみなさまのご苦労や悲しみを無にしないためにも、「原発さよなら」「いのちが大事」の声を共に大きく広げていきましょう。

14 基もの原発がある若狭からのメッセージ 若狭町 石地優

原発さよなら関西集会にお集まりの皆さん、ご苦労様です。関西の皆さんとつながりの深い14基もの原発がある若狭から集会への連帯メッセージを送らせて戴きます。

今回の福島原発事故を受け、福井でも新しい動きが出てきています。北陸トンネルより北の嶺北地方では原発の立地する嶺南地方に比べ原発の存在感は少なかったのですが、今回の事故により危機感が増しています。県都の福井市では2度にわたり若者を中心にパレード（デモ）が行われました。画期的な出来事です。地元の福井新聞のこだま欄に投稿される原発を批判する方は殆ど嶺北の方です。また小浜市議会に続いて越前市議会も脱原発意見書を可決しています。

西川知事は停止中の原発の再稼動について、県民の安全と電力供給は別問題と安全の確保されていない再稼動に反対しています。

電気よりいのちの方が大事にきまっています。関西の皆さんと原発とサヨナラする社会に向けて共に歩みたいと思います。

ハイロアクション福島原発40年実行委員会より

(ハイロアクション福島原発40年実行委員会 080-1807-6999、<http://hairoaction.com>)

3月11日から始まった原発震災で私たちの「ハイロアクション」は突然、現実のものとなり、福島に残った者、全国に散った者たちが、互いにそして新たな繋がりをつくりそれぞれのアクションを起こしています。この間たくさんの方々からご支援をいただいておりますこと、心より感謝申し上げます。この度、3月から延期していたオープニングイベントを、シンポジウム「ふくしま原発とわたしたちの未来～原発震災の渦中から～」として、いわき市小名浜にて開催することになりました。「3・11原発震災は、たくさんの生命と暮らしを根こそぎにし、取り返しのつかない放射能汚染を引き起こしました。原発事故は収束せず、人々が被ばくを強いられている中、私たちはこれからどう生き、どんな社会を創るのでしょうか？未曾有の困難な時代のはじまりに、今、福島原発40年のもたらした現実を直視し、全く新しい想像力をもって福島の未来を構想することが、必要です。」当日UST中継もあります。今後とも、各地のみなさまと連携してゆきたいと願っています。よろしくお願い致します。

「今、原発の終局に向けて」

泉かおり Shut 泊 脱原発ネットワーク・北海道 福島の子もたちを守る会・北海道

玄海町長原による玄海原発再稼働認可のニュースを待っていたかのように、7月5日、北海道庁は泊原発4か町村の合意さえあれば泊原発の再稼働を認めると発表しました。3月11日以後の私たちの度重なる要請をすべて無視して、泊原発稼働以来過去20年間に235億円の交付金を受け取った4か町村の意見だけをきいて、現在停止中の原発の再稼働を決めるというのです。泊1号機では5月の点検で配管2か所に損傷が見つかったばかりです。泊原発3号機の検査記録改ざんの告発が報道されて、まだ、1か月もたちません。そして、この3号機で来春開始予定のプルサーマル発電のためのMOX燃料のフランスでの製造もすでに始まっているかもしれません。

そんな私たちの住む北海道に、原発震災からの自主避難者の方たちが、続々と到着しています。ほとんどが、家族を捨て、全てを捨てて、身も心もぼろぼろになって、やっとの思いで札幌にたどり着いたという乳幼児を抱えた若いお母さんたちです。この中には、福島の子どもの尿からセシウムが検出されて、初めて事の重大さを理解した福島の夫が、仕送りをしてくれるようになったという方もいます。

広島、長崎、ビキニ諸島と第5福竜丸があり、スリーマイル島、チェルノブイリ、東海村JCOの事故があって、今、福島で原発震災が起きました。今からちょうど11年前、2000年の夏、高木仁三郎さんは最後のメッセージを書き残されました。「あとに残る人々が歴史に残る透徹した知力と、大胆に現実に向かう活発な行動力をもって、一刻も早く原子力の時代にピリオドをつけ、その賢明な終局に英知を結集されることを願ってやみません。私はどこかで、必ずその皆様の活動を見守っていることでしょう。」

高木さんのこの期待に今、皆さんと共に答えたいと思います。

本当に変える力があるのは、私たち一人ひとり

飯舘村より三重県伊賀市に避難 村上真平

「絶対安全」「経済的」「クリーン」という「原発神話」は、福島原発事故を通して、全くのウソであるということが、人々の前に事実として示されました。今まで原発の事など考えたこともなかった人たちまでもが、その問題の深刻さを知り、国民の80%近くの人々が、原発との共生は無理であるということを感じています。

しかし、原発の再始動を巡って、聞こえてくる、政財界、マスメディアにおける主流の本音は、「原発は安全で、経済的だから、動かすべき、そうしないと日本の経済が成り立たない。」という声ばかり。原発神話を今もって信じている一握りに満たない政財界、マスメディアの人々に、これからの日本の方向性を操らせるのは止めにしましょう。

本当に変える力があるのは、私たち一人ひとりです。一人一人によって作られる国民の意思が、社会を作り変えるのです。私たち一人一人が今まで、無意識にしていた「原発容認」という思いを、断ち切り、新しい未来の在り方を、真剣に考え行動しようとするとき、必

ず新しい潮流が生まれます。

原発なき世界を目指して グループ原発なしで暮らしたい・水俣 代表 永野隆文

集会に参加された皆さんに、九州水俣より連帯のメッセージを送ります。福島原発事故以来、反原発運動はとどまることを知らず、日本や世界各地で大きなうねりが続いています。しかし、政府、経済界、電力など推進派は、佐賀県玄海原発2,3号機の再稼働を突破口に、現在停止中の多くの原発を動かそうと猛烈な巻き返しをはかっています。

連日報道されている福島原発事故が終息の予想も不可能な状態なのに動かそうなんて、人の命を何とと思っているのでしょうか。時間の経過とともに被爆の実態が明らかになっていく今、私たちは、命と健康を脅かす原発を一日も早く廃炉にしなければならないと思います。

水俣病事件は公式確認から55年、今なお被害者は辛い日々を送っています。水俣では6月議会に私たちが提出した原発の廃炉などを求める陳情書が採択され、同時に水俣市議会は「水俣市から40キロに位置する鹿児島県川内原発1,2号機の計画的廃炉と新設3号機の再考」も含んだ「原子力・エネルギー政策を転換し、自然エネルギー政策促進を求める意見書」を7月1日、国に提出しました。原発の利権構造に関係のない地域に住む私たちだから言えること、そして、事故の際には同じように被害を受ける当事者として今後も粘り強く運動を続けていきたいと思います。皆さん、手を緩めず頑張りましょう。正念場です！！

最後に川内原発からわずか数百mに住み、生涯反原発に運動に取り組み、2年前に84歳で亡くなられた前田トミさんが歴代の首相たちに送り続けたはがきの文章を紹介します。

賢い国には原発はいりません 見直して下さい 地球の未来のために是非
日本はこれでいいのでしょうか 危ぶまれて仕方ありません
見直して下さい未来のために

「反戦」「平和」「反核ゴミ」は私の「祖国愛」「郷土愛」のモトイであります
うつしよ現世は次なる御世の母胎なり

『さよなら原発署名』をドイツで集めて 北沢美知・エンゲル

福島原発事故のあと、ドイツでは反原発運動が一気に再加熱しました。美浜の会のHPで要請内容も豊富かつ的確なこの署名を一見し、署名はドイツでも集まるだろうと、すぐ翻訳しました。

北ドイツを中心に、7つの反核・環境団体と反原発派の知人たちにメールで署名収集を依頼したほか、Greenpeaceのサイトとtazという新聞にオンライン広告を出しました。住んでいる町では、行きつけのお店等に用紙を置かせてもらいました。5月28



ドイツの集会で署名集め
リュックに署名用紙を貼り付けて

日の全国デモでは、メールやオンライン広告を見た人がいくつかの都市で集めてくれたほか、私もハンブルクのデモに赴き、署名を集めました。在独の日本人も頑張りました。

どの国で事故が起ころうと、原子力問題を即“自分たちの問題”と捉える人間がドイツに多いことには、感心させられます。原発問題を地球規模で考える日本人がもっと増えることを、心から望んでやみません。

京都府 あおぞら園 鬼頭 智子

原発事故が起きて、私はいつもは穏やかな日常風景をスケッチする園のブログに反原発の文章を書きました。迷いはもちろんありました。こんなことを書いてやめてしまう方や入園をためらう方がいるかもしれない・・・と。しかし「核」という負の遺産と「カネがすべて」の日本社会の在り方を、この子ども達に遺したくない・・・という必死の思いで書きつづってゆきました。園がつぶれてしまったとしても仕方ない。この問題に口をつぐむことは推進するってことだから。思いがけず多くのお母様方の賛同を得、園保護者の反原発の会ができ、デモにも参加しています。園ではガイガーで線量計測をし、RO 式の浄水器を設置、EM 菌や乳酸菌を撒く日々が続いています。ここよりももっと危険な場所で教育に携わっている方々に伝えたい。できることはいっぱいあります。教師が守るべきものは子どもあって文科省の通達ではない。声をあげられない子ども達のために声をあげてほしい。あなたが教師でいられるのは文科省ではなく子ども達のおかげなんだから。

「子どもを守って！」

奈良キリスト教会附属幼稚園 リトルファンファン 主任教諭 江副 敦子

私の願いは、脱原発運動など、こんなナンセンスな運動をしなくてもよい世の中です。

どうして、お母さん達自らが、本来ならしっかり子ども達と向き合って過ごせるはずの大切な時間をさいて、必死に子どもを守る為に立ちあがらなければいけない様な国になってしまったのでしょうか。

この期に及んで、国は、政治は、脱原発を抜きに、どんな決断を持って、私達に安全を語れるのでしょうか。

専門家の間でも、見解が分かれるような問題を、議論もなされないまま、また同じ過ちを繰り返そうとしていることから、世界中の人たちは、また、教訓を得るでしょう。その為に、犠牲になる子どもが、一人でも出るとしたら、全ての政策は、間違いであり、考え直すべきです。

この日本が、この様なことになるなんて、誰が想像したでしょう。私達のこの国は、安全で、物にあふれ、とても豊かな国と誰もが信じきっていました。しかし、そんなおごりが、招いた現実であり、なるべくして、なってしまったとしか私には、思えません。

どうか、今こそ、勇気と正しい決断を、子ども達の前に示してください。右往左往しているだけ、相手を非難しているだけの大人の姿は、どんなふうにも子ども達に写っていることでしょう。

私達は、自然への畏敬の念を失いかけていたこと、まるで怪物のように我が物顔で、この豊かな地球を滅ぼそうとしていることに気づき、反省しているのだということを、子ども達に伝えたいのです。

そして、この福島の子も達が、母の偉大な愛で守りぬかれたという事実は、将来この子達こそ、この国を救う多くの希望と力を与えてくれるはずです。

7 / 10 原発さよなら関西集会に寄せて 阪南中央病院 医師 村田三郎

福島原発震災による深刻な広範な住民放射能被曝と事故収束に向けた作業による労働者への被曝は、収束するどころかますます増え続けています。

政府は、住民や子供への被曝の健康影響に関する情報について、依然として「健康被害はおこらない」ということしか明らかにせず、妊婦・子供も含めて、避難するかしないかは個人の判断としています。福島県民200万人の健康調査を始めると言っていますが、「健康被害は起りえないと断言する」山下俊一福島県放射線アドバイザーがトップになる調査では、あくまでも「健康不安を解消する」ための「健康被害がなかった事を確認する」ような、住民が「モルモットになる」可能性もあります。労働者被曝も極めて深刻です。高線量下で事故収束のために働く労働者の被曝を低減するための徹底した被曝管理と健康管理がどうしても必要です。

全国の運動でこれ以上の被曝を許さず、住民・労働者の健康を守るために、全ての原発を止めていきましょう。

NPO 法人使い捨て時代を考える会

私たちは食の安心、農の安定を願って有機農業を推進する活動を40年近くつづけていますが、このたびの福島原発事故は、その活動を根底から揺るがすものでした。原発があるかぎり、いかなる安全も、安定も考えられません。私たちは「質素な暮らしで命を守ろう」を合言葉に原発に依存しない社会を追求しています。電気が足りないなら足りないなりに暮らせるはずですが、命や安全な暮らしと電気とを引き換えにはしたくありません。命を脅かし、生活を脅かす原子力発電を一日も早くなくしましょう。

再処理工場本格稼働やめよ 武藤北斗 NPO地球とともに

東日本大震災で被災し、宮城県東松島市から大阪に一家で移住した。私にできることは何か日々考えている。福島第一原発事故の放射能漏れは復興の大きな壁となっているが、国や事業者からの情報は不足し被災者は何を信じればいいのか分からない。そんな中、新たな脅威となりうるのが青森県六ヶ所村にある使用済み核燃料再処理工場だ。

実際の使用済み核燃料を使う試験を2006年3月から始めた同施設はトラブルが相次ぎ本格稼働が延期されている。稼働すれば通常運転で海と大気中に放射性物質が放出。海流にのり岩手・宮城・福島はもちろん、千葉の房総半島まで流れる事もある。事業者は大気や海水で十分に拡散、希釈されると言うが安全性への疑念は消えない。地震などによる電源喪失で冷却機能などが失われると高レベル放射性廃液が沸騰し水素爆発に繋がる恐れもある。

危ないのは原発だけじゃない。この事実を関西で発信することが、私なりの東北復興支援の一つである。

安全食品連絡会

「原発さえなければ…」との言葉を 3月11日以降 どれほど耳にしたことでしょうか！

これはフクシマ原発周辺の住民の方たちから聞いた言葉ではありません。

私たち関西圏に住んでいる「食の安全安心ということを中心に運動をする者」の日常会話です。農薬漬の野菜を食べたくないと思う消費者なら、有機農業従事者とのつながりは長くて深い絆をもっています。

東北から共同購入する品物も数多く、季節感溢れた野菜や果物が届けられ「旬」という喜びを送ってもらっていました。共同購入する人たちにとって至福の時間だったのです。

しかし、フクシマの原発事故が起こってから 私たちの中で複雑な思いが出始めています。これまでの生産者との絆を切ることもできず、とは言え、汚染されているかどうかと不安な食べ物を購入しつづけることも難しいのです。

私たち安全食品連絡会では、「家族の健康を守り、次代を担う子どもたちが健全に育つよう、市販食品の安全確保をめざして活動する」を、会の活動の目的にしています。

現地でも有機農業をされている方から、「自分たちが食べられないものは出荷できない」と言い、畑で元気に育っているエンドウを見て泣いている若い生産者に声かけられなかったと聞きかされ、胸のつまる思いがしました。一番大変なのは、放射能で汚染された所で住み続けるしかない人、そしてその地を追われ避難した人たちであることを。

これは巨大地震や大津波という天災でなく、4ヶ月経った今も収束のメドの立たない原発事故が引き起こした人災です。

これまで、石橋克彦さんの「地震が本気を出すと大変なことになる」、小林圭二さんが「原発は、ひとたび事故を起こしてしまうと怪物化してしまう」と言われてこられました。今フクシマで起こっていることは、原発が人間と共存できない事を証明しました。

国と電力会社は、一日も早く、全ての原発を止めてください！！

そして、以前の平穏な生活を私たちに返してください！！
